



37

通巻 第2741号
2016年4月8日発行

1960年創立
昭和35年2月5日



第2510地区
重点課題

●2015-2016年度 IRテーマ
世界へのプレゼントになろう

2015-16年度IR会長
K. R. ラビンドラン

- ①クラブ戦略計画への支援
- ②新会員のフォロー支援
- ③クラブサポート強化

●本日 4月8日 金のプログラム

◎職場訪問例会

かま栄本社(堺町)点鐘12:30

●来週 4月15日 金のプログラム

◎「人工減少時代のまちづくり」

片桐 由喜 教授(小樽商大教授)

●再来週 4月22日 金のプログラム

◎会員卓話「生活習慣病(糖尿病)について」

高木 正光 会員

●第36回例会報告 4月1日 金 「多様性受容力について」 スピーカー:秋野恵美子 小樽保健所所長 ●司 会 廣瀬副会長

- 国歌斉唱 ■ 「君が代」
- ロータリーソング ■ 「それでこそロータリー」
- ゲスト・ビジターの紹介 ■

秋野 恵美子様 (小樽市保健所所長)

■ポールハリスフェローピン授与 ■ 廣部会長
=公益財団法人ロータリー日本財団への寄付=

北野明宣 会員 3回目	廣部隆夫 会員 3回目
廣瀬保男 会員 2回目	山吹啓之 会員 2回目
宮川伸二 会員 2回目	小笠原俊介 会員 2回目
鈴木崇史 会員 1回目	阿部 誠 会員 1回目
紺谷茂夫 会員 1回目	坂口 榮一 会員 1回目

■会長の時間 ■ 廣部会長

- 小樽保健所所長の秋野様、お忙しい中を、おいでいただき有り難うございます。後ほど、ご講演よろしくお願ひ申し上げます。
- 27日、日曜日のIMお疲れさまです。一時はどうなることかと、思いましたが、皆様のお蔭をもちまして、無事終了することができました。感謝申し上げます。第一例会ですので例会終了後、理事会を開催いたします。理事、役員はお残りください。

■ご挨拶 ■ 齋田ガバナー補佐

○先日のIMを南ロータリークラブの主管で開催することができました。たくさんの会員の協力のもとIMのフォーラム形式の充実、さらには見延実行委員長発案による懇親会も、参加クラブの皆さまが楽しく思い出になっていただいたと感じております。クラブの皆さまには準備から色々な形でご協力いただいたことに感謝申し上げます。

■ご挨拶 ■ 見延実行委員長

○さすが第6グループ齋田ガバナー補佐主催のIMはとて立派なIMだったと思います。フォーラムの内容も充実していましたし、懇親会は心配をしていましたが、親睦委員会を始め委員会の垣根を越えて連携を図り、本当に素晴らしい活躍をしていただきました。司会もすばらしかった。あるクラブからは最高のIMでしたというお褒めのメールをいただきました。これは会員の皆さまのご協力の賜物と感謝しております。ありがとうございました。これをもって実行委員長を退任させていただきます。

■幹事報告 ■ 坂口幹事

- 3/27日開催されました「IM」のアルバムが出来上がりましたので、これから各テーブルへ回覧させていただきます。
- 余市RCより会報28号～33号が届いております事務局の机においておきますのでご高覧下さい。

■委員会・同好会報告 ■

◎社会奉仕委員会 佐藤委員長

- 4月6日に交通安全協会から春の全国交通安全運動ということで、9時半から小樽駅前で開催されます。お時間のあるかたはお越しく下さい。

◎緑村会報 宮川会員

- 3月30日すし田にて行いました。11名の参加で親睦を深めました。



◎入船村会 荒田会員

- 3月22日参加人数は一桁でしたが楽しく行いました。

◎米山会員より

○私事のために貴重なお時間を使って申し訳ありません。かねて建設中でありました宏楽園がおかげさまで工事が順調に進んでおまして、4月9日(土)オープンということになりました。その節は皆さまに大変ご心配をお掛けし、励ましをいただきました。どうにかスタート台に立つことができそうです。5、6日の2日間13時から17時の間で内覧会を行います。時間が興味のあるかたはおいでください。



■会員誕生日■

4月生まれの会員

4/5 山吹 /8 太田 /13 大黒屋、工藤、北野
/20 阿部 /25 上野 /26 坂口 /28 佐藤(公)



いつまでもお元気で！

■会員結婚祝■

4月結婚の会員

4/13 大谷 //13 新倉 /23 白石 /27 斉藤
/27 宮川



思い出を大切に！

多様性という言葉は、最近時々聞きます。生物多様性などと。要するにいろいろな存在があるということで、人に言えば、個性が違う、意見が違う、民族が違う、などとなります。このことを受容する、つまり受け入れるという事は、「みんな違ってそれでいい」という事になります。今は、日本も外国人の方が住んでいたり、観光に訪れたり、と、単一民族の国とも言えなくなってきています。そんな中に居れば、多様性を受容することは自然に出来そうな感じもします。しかし、森田ゆり氏によると、多様な存在が共存している社会では、放っておくと他者を排斥する動きも出てくるそうです。ですから、多様性受容力は意識的に育てる必要がある、とのことです。それで開発されたのが、多様性受容力ワークというわけです。私は、小樽ポッケという団体を作って、昨年から年に4回多様性受容力ワークを小樽で実施することにしました。今まで2回行いました。このワークは、

- ①知らなかったことを知る「知識のワーク」
- ②自分たちの多様性に気づく「気づきのワーク」
- ③他者を受容するためには自分自身がオープンでなければならず、そのためには自分自身を認め、許すことなど、コミュニケーションのためのスキルワークも必要となります。これら3種類のワークを組み合わせています。

アメリカのような多民族国家も、以前は「アメリカ人」おいう一色にそろえることで国家を成立させようとも考えていたそうですが、それでは、力の強いひとびと、つまり白人の男性の富裕層のカラーに染まってしまうという結果になったそうです。そこで、そうではなく「サラダボウル」つまり、レタスはレタスのまま、トマトはトマトのままでいて、なおかつサラダとして一緒に存在するという概念が必要とされたとのことです。

この「多様性受容力ワーク」は、子どもたちの間に存在している「いじめ」の問題や、子育ての中で起きている「虐待」の問題、また、「発達障害」の子どもたちを受け入れるなど、様々な場面で側面的に有効なものだと考えています。小樽で、子どもたちも大人の間にも、多様性受容力が大きく育っていくといいなあと思います。

●例会プログラム●



小樽市保健所所長
秋野 恵美子様

多様性受容力について

■出席委員会■

・平成28年4月1日

会員総数 72名 本日の欠席者 13名
大橋、桂、角野、工藤、佐藤(喜)、佐野、永原、新倉、林、本間(清)、湊、山田、山吹

・平成28年3月4日(金)

会員総数 72名 出席摘要免除者 14名
病欠者数 0名 ホーム欠席者数 18名

メーキャップ 5名 純欠席者数 0名
確定出席率 81.16% 3月の確定出席率 87.44%
3月平均出席率87.44%

■メーキャップ■

3/6 岡崎 (国際ロータリー)
3/30 荒木、佐藤 (友) (緑村会)
3/22 山吹、新倉 (小樽RC)